

# 在宅医療・介護連携 職種別アンケート調査結果報告

2025 年 12 月 5 日  
鴨川市福祉総合相談センター

1. 目的 『それぞれの職種で現場での課題をどう感じているか、実態を把握する』

## 2. 実施方法

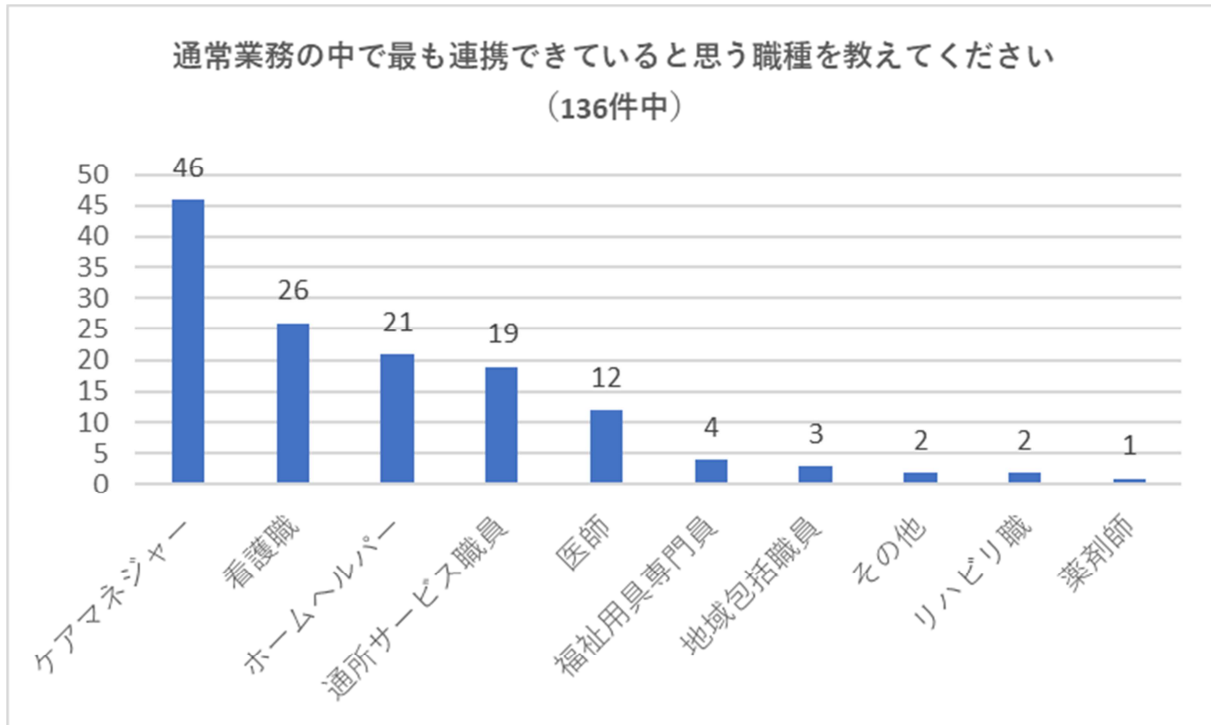
- 1) 実施期間： 2025 年 10 月 10 日～10 月 24 日
- 2) 回答方法： メールにて、Web 入力フォームを配布、回答を受付した
- 3) 配布数： 市内在宅医療介護関連機関 64 カ所 / 対象者 約 400 名（推定）

## 3. 結果

### 1) 回答数：

- ① 136 件（医療職 50/ 介護職 86）/ 回収率 約 34%（推定）
- ② 事業所別回答数内訳：
  - ・医療系機関（訪問診療、訪問看護、薬局、訪問リハビリ）: 34 件
  - ・介護系機関（居宅介護支援、訪問介護、通所介護、通所リハビリ、小規模多機能型居宅介護、福祉用具、地域包括）: 102 件

### 2) 通常業務の中で、最も連携できていると思う職種を教えてください（Q3）



3) 上記 Q3 で選択した理由を教えてください (Q4):

4つのカテゴリー (再現性 約 70~100%): 電話、メール等連携手段が確立している  
 同事業所内など相談しやすい環境にある  
 介護保険サービス利用の要件に含まれている  
 専門職としての信頼感がある (同職種など含む)

① 医療職からのコメント (自由記載)

連携できている理由： 医療職からのコメント				
	電話、メール等連携手段が 確立している	同事業所内など相談しやすい環境にある	介護保険サービス利用の要件に含まれているため	専門職としての信頼感がある (同職種など含む)
ケアマネジャー	2	3	4	4
医師	1	4	3	0
看護職	0	1	0	5
通所サービス職員	0	4	2	1
ホームヘルパー	0	1	0	1
リハビリ職	1	0	0	0
薬剤師	1	0	0	1

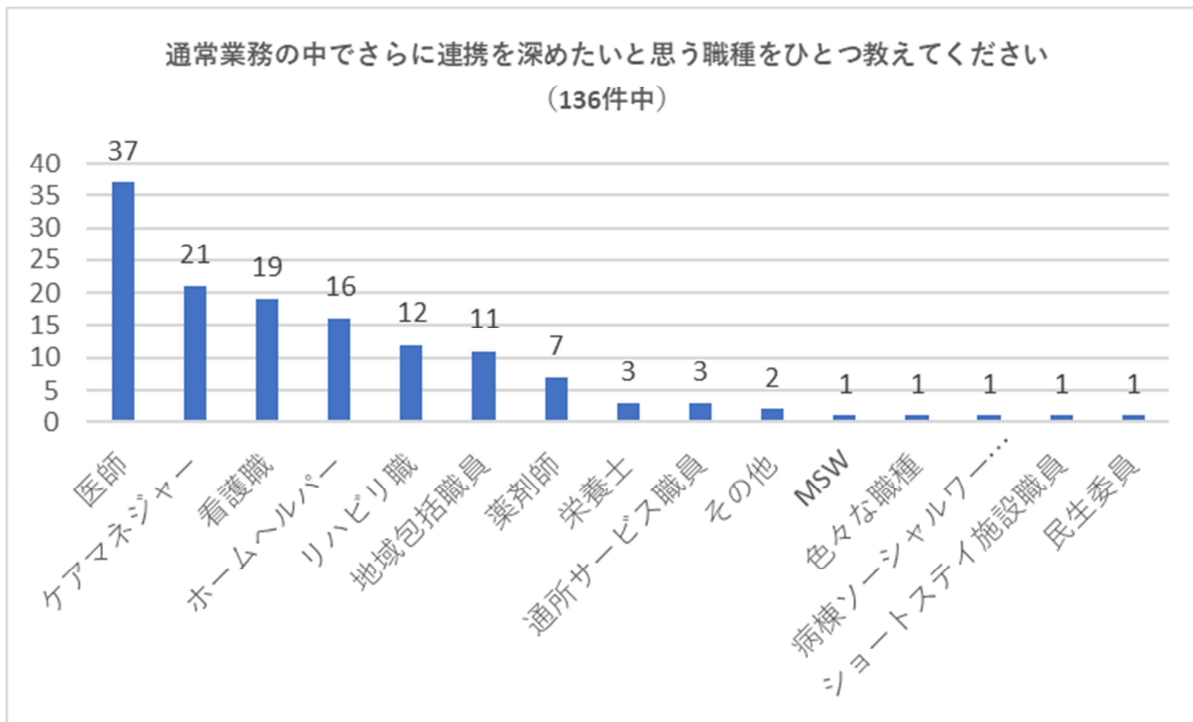
例) ケアマネジャーについて： 専門職としての信頼感を示唆 『利用者さまに何かあったときや対応に困ったときは、必ず担当ケアマネに報告、相談している。ケアマネも迅速に対応してくれる』  
 看護職について： 専門職としての信頼感を示唆 『内服管理や病状の変化に対応するため』

② 介護職からのコメント (自由記載)

連携できている理由： 介護職からのコメント				
	電話、メール等連携手段が 確立している	同事業所内など相談しやすい環境にある	介護保険サービス利用の要件に含まれているため	専門職としての信頼感がある (同職種など含む)
ケアマネジャー	8	0	12	4
ホームヘルパー	4	3	1	7
看護職	3	6	1	6
通所サービス職員	1	3	3	2
地域包括職員	1	0	0	2
福祉用具専門員	2	0	0	0
リハビリ職	1	0	0	0
医師	0	0	0	1

例) ケアマネジャーについて： 介護保険利用の要件を示唆 『サービス担当者会議等、会議を行っている』  
 ホームヘルパーについて： 専門職としての信頼感を示唆 『在宅支援では、「日常生活」を支える、という支援が殆どであり、ヘルパーの生活支援や身体介護が一番大きく関わってくる』

4) 通常業務の中で、さらに連携を深めたいと思う職種を一つ教えてください (Q5)



5) 上記 Q5 で選択した理由を教えてください (Q6):

4つのカテゴリー (再現性 約 70~100%): 連絡の取りづらさがある

利用者の状態を各専門分野からの見解を知りたい

専門外のことで不安があるので相談したい

利用者のケア方法など具体的な助言が欲しい

① 医療職からのコメント (自由記載)

更に連携を深めたい理由： 医療職からのコメント				
	連絡の取りづらさがある	利用者の状態を各専門分野からの見解を知りたい	専門外のことで不安があるので相談したい	利用者のケア方法など具体的な助言が欲しい
医師	7	3	1	0
ケアマネジャー	2	4	0	1
薬剤師	0	4	0	0
ホームヘルパー	0	4	0	0
看護職	1	0	0	0
地域包括職員	1	0	1	0
リハビリ職	0	1	0	0
その他：MSW	0	1	0	1
その他：ショートステイ施設	0	1	0	0
その他：民生委員	0	1	0	0

例) 医師について： 連絡のとりづらさを示唆 『報告が一方通行になっているから』

専門分野からの見解を知りたい旨を示唆 『利用者さんの安心につながる』

ケアマネジャーについて： 専門分野からの見解を知りたい旨を示唆 『ケアマネジャー様やホームヘルパー様は患者様の実生活の様子をご存じの場合が多く、その情報で不適切な医薬品の使用を未然に防ぐことができたケースを複数回経験している』

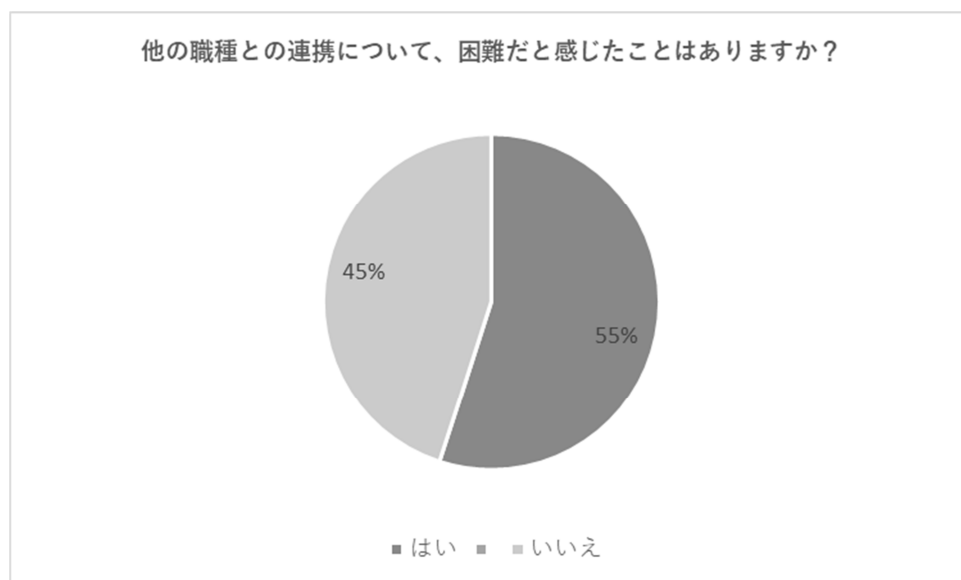
## ② 介護職からのコメント（自由記載）

更に連携を深めたい理由： 介護職からのコメント				
	連絡の取りづらさがある	利用者の状態を各専門分野からの見解を知りたい	専門外のことで不安があるので相談したい	利用者のケア方法など具体的な助言が欲しい
医師	5	9	1	0
看護職	1	5	5	1
ケアマネジャー	0	3	0	3
ホームヘルパー	0	7	1	3
リハビリ職	0	5	0	3
地域包括職員	1	3	1	0
通所サービス職員	0	3	0	0
薬剤師	2	0	0	0
栄養士	2	0	0	0

例) 医師について： 専門分野からの見解を知りたい旨を示唆 『予後などについて 話を聞きたい』

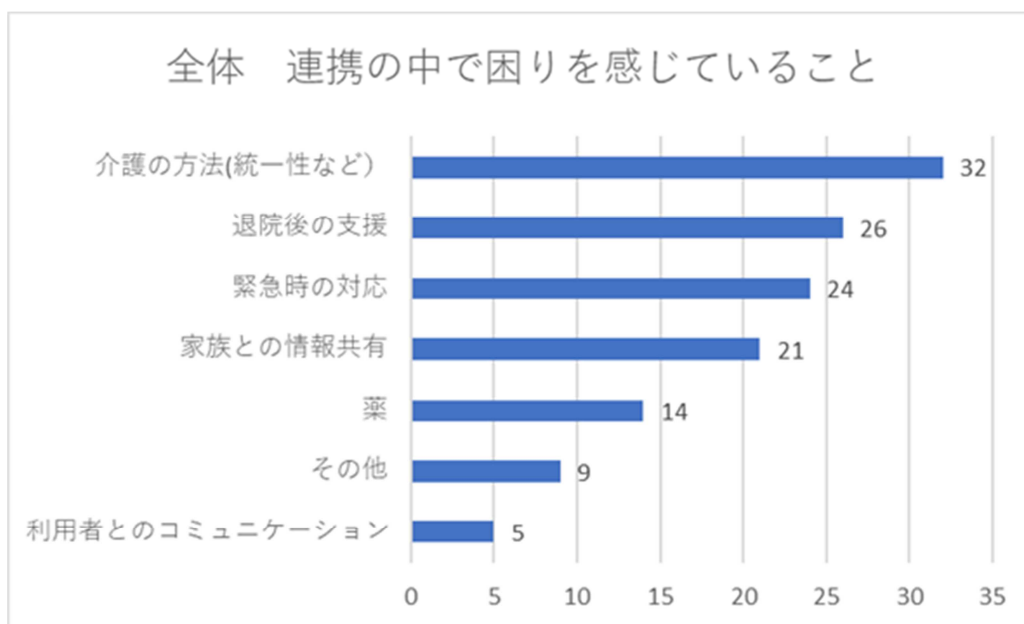
看護職について： 専門外で不安があるので相談したい旨を示唆 『医療的なことを相談しながら、介護ケアを行いたいです』

## 6) 他の職種との連携について、困難だと感じたことはありますか？（Q7）

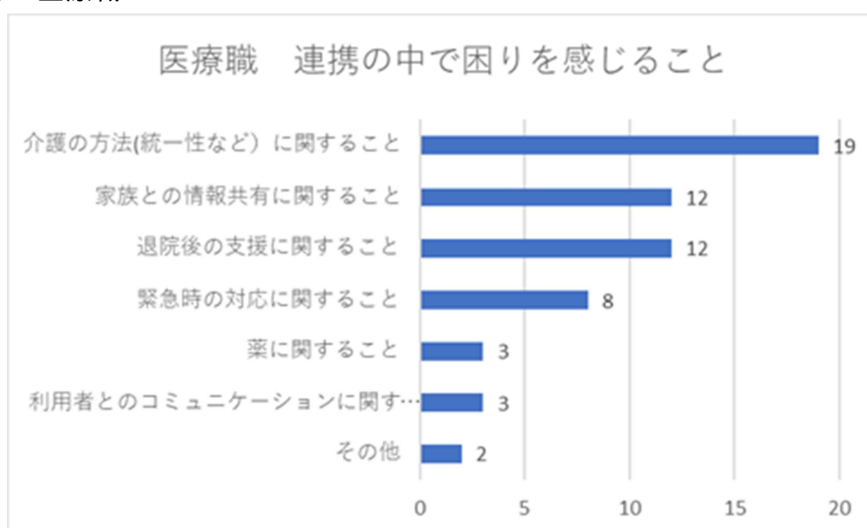


7)「はい」と回答された方で、日々の連携の中でどんな困りを感じていますか？(ふたつまで)(Q8)

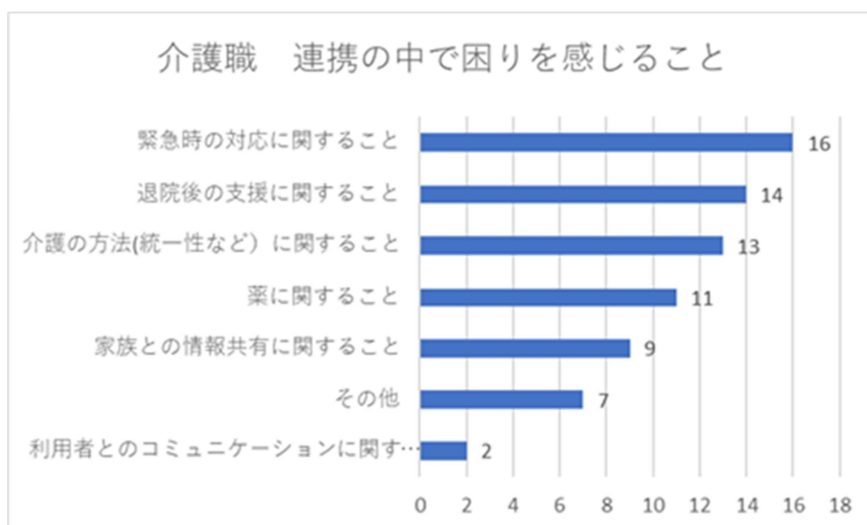
① 全体



② 医療職



③ 介護職



7) 連携の中で困りを感じることにについて： その他 コメント例

- ① 医療職： 『居宅サービス計画書の方針、内容。居宅サービス計画書の控えを頂きたいと依頼していますが、なかなか受け取れないこともあるので』
- ② 介護職： 『一部の職種ではあるが ケアマネが介入する前にすべて依頼もしてあり 途中で機種の変更もあったが時間がたってから知った』

#### 4. 考察/ まとめ

- 1) **連携しやすい職種**はケアマネジャーが約 34%を占めた。介護保険サービス利用における要件として担当者会議等が認識されていることがコメントからも伺える
- 2) 連携しやすい理由としては、同施設内等、すぐにコンタクトがとれる環境、関係性があることが示された。一方で、単独事業所等における多職種連携の困りについては現状把握および課題を検討する余地がある
- 3) **連携を深めたい職種**の第一位は医師であった。専門的な見解を共有することで日常生活における利用者の利益につながるの思いが推察される。鴨川市内における医療機能の特徴として、病院数、医師数は県下の中でも割合が高い(人口 10 万人の病院数、医師数の割合は県下 1 位)状況にある。このため、今後は、在宅医療・介護に携わる医師以外の病院の医師やソーシャルワーカー等との連携のあり方を検討し、さらに医療職と介護職の連携が図られるよう取り組むことが必要である
- 4) **連携の中で困りを感じることに**については、医療職と介護職でその傾向に違いがあった。医療職では介護の方法(統一性)に関することが突出している。一方で介護職では緊急時の対応や退院後の支援、介護の統一性、薬に関することが半数以上を占めた。医療職、介護職共に各専門分野以外についての困りごとに対する連携の必要性が示唆された
- 5) 今回のアンケート調査では、薬剤師との連携が必要とされていることが推察された。居宅療養管理指導料として薬剤師が関わるケースは通院困難な場合に限られている。しかし、利用者の中には服薬管理が必要なケースが少なくないため、薬剤師との連携がより必要と考える

お忙しい日々の中、アンケートへのご協力、誠にありがとうございました